

「荒川下流タイムライン(試行案)の運用」の総括と 本年の検討の流れ

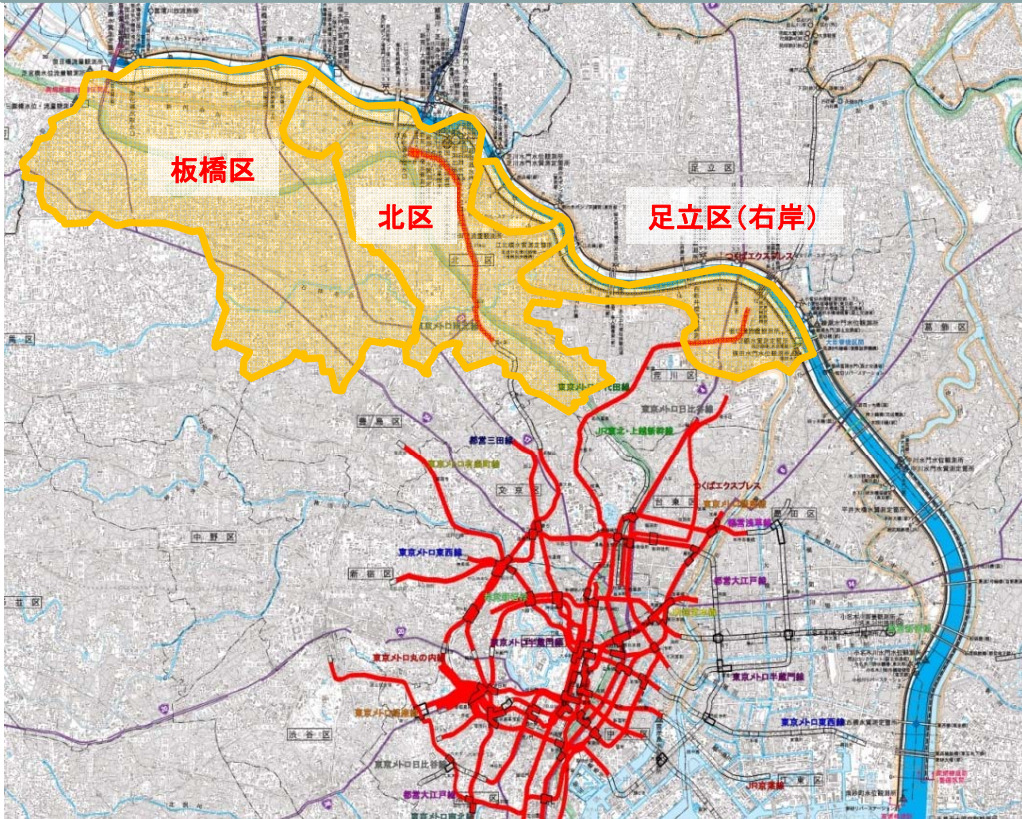
平成28年3月22日

荒川下流域を対象としたタイムライン(事前防災行動計画)
検討会(第4回)

荒川下流タイムラインについて

- 平成26年8月から北区・板橋区・足立区をモデルエリアとしてタイムラインの検討を開始
- 検討会には、警察・消防はもとより、鉄道事業者や電気通信事業者など多様な主体が参画

【検討のモデルエリア】
荒川下流部の氾濫ブロックR2(右岸上流)
沿川の北区・板橋区・足立区



<荒川右岸21k地点(東京都北区志茂地先)で氾濫した場合の被害想定>

浸水面積	約110km ²
被災人口(浸水区域内人口)	約120万人
浸水世帯数	約51万世帯
水没する地下鉄等	17路線、約147km

民間を含む**12機関19部局**が参画し、平成26年8月に検討会を発足

荒川下流 足立区 北区 板橋区

東京都 警視庁 JR東日本 東京メトロ KSEI 京成電鉄 つくばエクスプレス 東武鉄道 板橋特別支援学校 高島特別支援学校

H27.1.28現地調査 H27.4.20テーマ別WG

東京管区気象台 東京消防庁 東京電力 NTT東日本 UR都市機構 社会福祉法人 東京援護協会 高島平福祉園 社会福祉法人 東京援護協会 特別養護老人ホームいずみの苑

※ 赤枠は追加機関

検討の過程で参加機関を拡充し、現在は、**20機関37部局**が活発に議論

荒川下流タイムライン検討に用いるハザード

●ハザード対象

- ・荒川下流域では、放水路完成（昭和5年）後堤防の破堤実績はなし
- ・カスリーン台風（昭和22年9月）は対象地域にとって戦後最大の洪水



●カスリーン台風の雨量を確率規模1/200に引伸し（1.2倍）

- ・荒川の河川整備の計画の基本としている規模の洪水
- ・荒川の浸水想定区域図（各区のハザードマップの基図）で用いた洪水



●ハザードの想定

- ・降雨：カスリーン台風の雨量を確率規模1/200に引伸し（1.2倍）
- ・水位：この降雨を現在の河川の状況で計算した水位
- ・台風の進路・規模・速度：カスリーン台風時と同等
- ・風速：平成23年台風第15号時と同等

荒川下流タイムライン(試行案)の検討経緯

◆ H26.8.21 荒川下流タイムライン検討会(第1回)

H26.12.3 荒川下流タイムライン検討会 WG
・対象メンバー・エリア・ハザードについて議論

◆ H26.12.18 荒川下流タイムライン検討会(第2回)

テーマ別のWGで検討

① 住民避難WG
【足立区:千住】

② 要支援者施設WG
【板橋区:高島平】

③ 交通の運行状況WG
【北区:赤羽周辺】

4回 (H27.1.28、H27.2.9、H27.3.5、H27.4.20) 開催

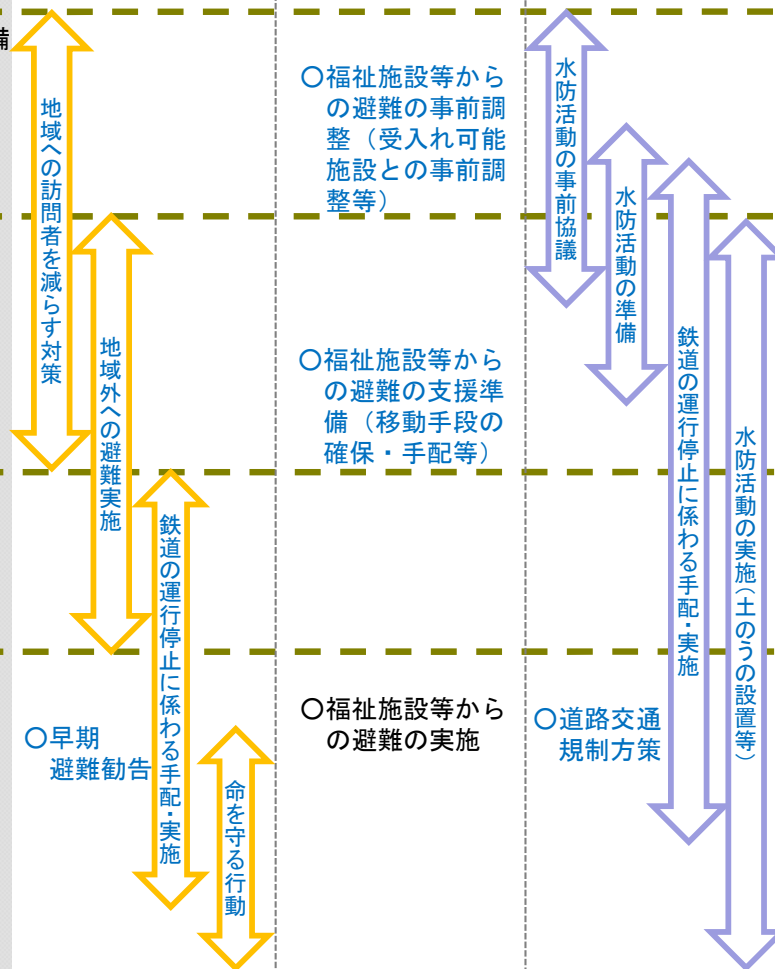
H27.5.19 荒川下流タイムライン検討会 WG
・荒川下流タイムライン(試行案)について議論

◆ H27.5.25 荒川下流タイムライン検討会(第3回)

荒川下流タイムライン(試行案)の公表・運用開始

荒川下流タイムライン(試行案)のイメージ

5日前	気象情報等	荒川下流 河川事務所	北区・板橋区・ 足立区	東京都・東京消 防庁・警視庁	交通事業者 ライフライン事業者	住民避難WG 【足立区・千住】	要支援者施設WG 【板橋区・高島平】	交通の運行状況WG 【北区・赤羽周辺】
	○台風情報 ○今後の見通し	○OTL運用体制の構築 ○河川管理施設の点検	○OTL運用体制の構築	○OTL運用体制の構築	○OTL運用体制の構築			
3日前		○資機材の確認・準備	○資機材の確認・準備	○資機材の確認・準備	○資機材の確認・準備			
2日前			○休校・休園の検討					
	○大雨注意報	○雨量・水位観測情報の提供	○雨量・水位観測情報の確認	○雨量・水位観測情報の確認	○雨量・水位観測情報の確認		○福祉施設等からの避難の事前調整(受入れ可能施設との事前調整等)	
1日前			○休校・休園の措置の決定				○福祉施設等からの避難の支援準備(移動手段の確保・手配等)	
	○大雨警報				○鉄道事業者間の運行調整の実施 ○運行状況の利用者への周知			
半日前		○岩淵水門を閉鎖する前の河川巡視						
	○はん濫注意情報	○岩淵水門閉鎖	○避難所の開設 ○避難準備情報の発表		○アンダーパス等、道路利用者への注意喚起 ○地下鉄・地下街等の避難対策	○早期避難勧告	○福祉施設等からの避難の実施	○道路交通規制方策
	○はん濫警戒情報	○区へのホットライン	○地下街等からの避難誘導			○命を守る行動		
	○はん濫危険情報	○排水機場の運転停止	○避難勧告の発表 ○報道機関への協力依頼 ○避難の実施	○避難状況の把握				
0時間	○はん濫発生情報	○被災状況の把握 ○今後の氾濫予測 ○復旧対策の検討	○避難指示の発表 ○垂直避難の実施		○施設保全			
	破堤		○広域支援・連携の要請 ○応急対策	○道路通行止め ○応急対策	○応急対策	○長期避難者支援対策		



【凡例】

- 黒字: 現行計画等に記載がある項目
- 赤字: 今回の検討で追加された項目
- 青字: 引き続き検討が必要と思われる項目 4

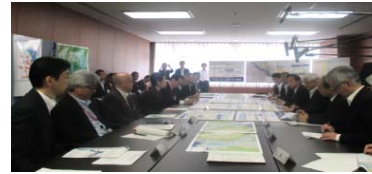
荒川下流タイムライン(試行案)の運用状況

◆ H27.5.25 荒川下流タイムライン(試行案)の公表・運用開始

8つの台風に適用

台風名	適用期間	進行状況
第9号	7月 3日～7月 9日	-120H
第11号	7月 9日～7月17日	-96H
第12号	7月21日～7月27日	-120H
第15号	8月19日～8月26日	-120H
第16号	8月19日～8月24日	-120H
第17号	9月 7日～9月11日	-120H
第18号	9月 7日～9月10日	-72H
	(9月9日運用調整グループ会議開催)	
第20号	9月16日～9月18日	-120H

•H27.6.8 国土交通大臣と
タイムラインについての意見交換



•H27.9.1～9.15
タイムライン列車による広報



(H27.9.1～9.30東京メトロ、つくばエクスプレス、埼玉高速鉄道の全駅、公共施設に啓発ポスターを掲示)

•マスコミ等を通じた広報活動(随時)

•H27.9.10 鬼怒川決壊

•H27.10.16
荒川下流域における
「避難を促す緊急行動」
に関する会議を実施

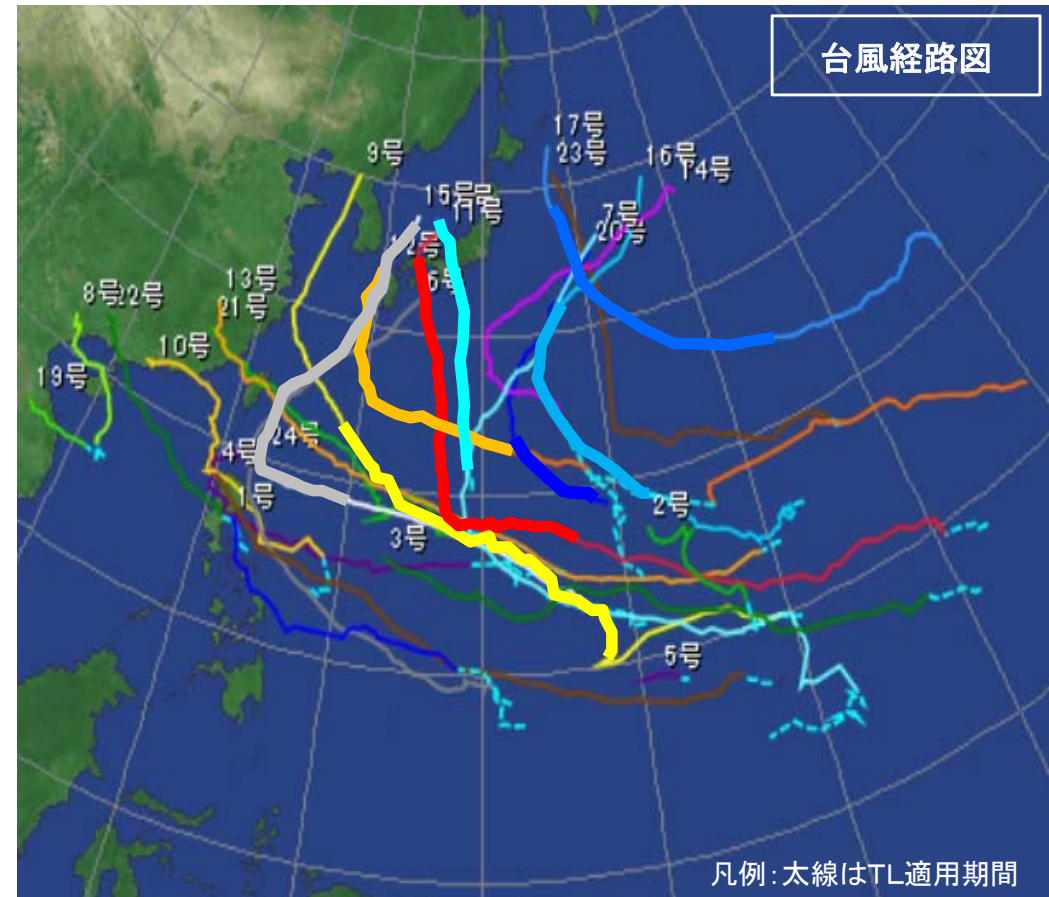
•H27.10～H27.12

- トップセミナー(3市12区)を実施
- 共同点検(2市7区)を実施
- チェックリストの作成(3市12区)

荒川下流タイムライン(試行案)を適用した台風

平成27年5月25日に荒川下流タイムライン(試行案)を策定以降、平成27年には8個の台風でタイムラインを適用し、試行した。

台風名	荒川下流タイムライン適用期間 (適用日数)	TL設定時刻
第9号	7月 3日～7月 9日 (7日間)	-120H
第11号	7月 9日～7月17日 (9日間)	- 96H
第12号	7月21日～7月27日 (7日間)	-120H
第15号	8月19日～8月26日 (7日間)	-120H
第16号	8月19日～8月24日 (5日間)	-120H
第17号	9月 7日～9月11日 (5日間)	-120H
第18号	9月 7日～9月10日 (4日間)	- 72H
第20号	9月16日～9月18日 (3日間)	-120H



荒川下流タイムライン(試行案)の試行状況

平成27年に荒川下流タイムライン(試行案)を適用した8つの台風のうち、台風第11号、台風第17・18号(併せて運用)を対象に、16機関の試行状況を集計。

●台風第11号

荒川下流タイムライン(試行案)で整理された -96Hまでの防災行動項目(延べ**131**項目)に対し、実施すべきと判断して取り組んだものは**108**項目。実施しないと判断して見送ったものは**23**項目。また、-96H以降の項目を前倒しで、実施すべきと判断して取り組んだものは**1**項目。

●台風第17・18号 (併せて運用)

荒川下流タイムライン(試行案)で整理された -72Hまでの防災行動項目(延べ**354**項目^(※1))に対し、実施すべきと判断して取り組んだものは**264**項目。実施しないと判断して見送ったものは**90**項目。また、-72H以降の項目を前倒しで、実施すべきと判断して取り組んだものは**5**項目。

(※1: 青字の防災行動項目は除く。)

荒川下流タイムライン(試行版)の検討経緯

◆ H28.1.20 荒川下流タイムライン(試行案)机上演習



◆ H28.2.8 荒川下流タイムラインテーマ別WG(第5回)

- ・ タイムライン試行運用及び机上演習等の結果を反映したタイムライン見直し
- ・ 新規テーマでのタイムラインの検討(家屋倒壊危険ゾーン設定)
- ・ 3区タイムラインの統合



◆ H28.2.25 荒川下流タイムライン取りまとめWG(第3回)

- ・ 統合したタイムライン(試行案)について議論



◆ H28.3.22 荒川下流タイムライン検討会(第4回)

荒川下流タイムライン(試行版)の公表・運用開始



沿川への拡大、さらなるブラッシュアップを図る